第３　問題作成部会の見解

１　出題教科・科目の問題作成の方針

○　現代社会の課題や人間としての在り方生き方等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を的確に読み解きながら基礎的・基本的な概念や理論，考え方等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては，図や表など，多様な資料を用いて，データに基づいて考察し判断する問題などを含めて検討する。

２　各問題の出題意図と解答の結果

第１問では，学習指導要領の「現代社会と人間としての在り方生き方」の中の「現代の民主政治と政治参加の意義」および「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」の領域を中心に，冷戦後の武力行使の事例，世界各国の政治体制の特徴，囚人のジレンマ，核兵器使用の禁止・制限の取組，国際裁判所，国際社会の構造と現状に関わる知識および思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して問題を作成した。小問においては，問５で国際刑事裁判所に関して，問６では国際社会の構造と現状に関して，それぞれの重要な問題を多面的・多角的に考察し，その解決に向けて，公正に判断することができる力を問うことを意図した。難易度は全体的に適正であったが，問３と問５の難易度が高かったと思われる。前者はパズル的な要素が，後者は国際裁判所に関する正確な知識を求められる点が，難易度が高かったと思われるが，いずれの問題も現代の国際社会を理解するために必要な知識や能力を問うものである。

第２問では，学習指導要領における「現代社会と人間としての在り方生き方」の中の「現代の経済社会と経済活動の在り方」,「青年期と自己の形成」の領域を中心に,「市場経済の機能と限界に関する知識」「生涯における青年期の意義と自己形成」「民主社会において自ら生きる倫理」についての思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して問題を作成した。場面設定については，身近な購買行動を，経済的・心理的・倫理的な視点からそれぞれ考察させることを目指した。小問については，問１では，機会費用に関して，概念や理論等を活用し，制度や政策，日常生活に見られる人々の行為等，社会的事象の意味や意義を解釈することができる力を問うことを意図した。問２では，逆選択に関して，概念や理論等を活用し，社会的事象等の原因と結果等，関連について考察することが出来る力を問うことを意図した。問５では，功利主義および功利主義の修正に貢献したベンサム，ミル，ロールズに関する知識を問うことを意図した。外部評価では，第２問全体として基礎的かつ標準的な設問であるとの評価をいただいた。他の大問も含めたバランス調整の観点からすると，難易度は概ね適正であったといえるが，問５は問題全体に比べて難易度が高かったと思われる。現代社会で扱われる倫理分野に関して，代表的な思想家のキーポイントを意識した理解が求められる。

第３問では，学習指導要領における「私たちの生きる社会」の中の「現代社会における諸課題」の領域を中心に，公害，外部不経済，家族，市場競争，循環社会，税，行政統制，環境影響評価に関わる知識および思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して問題を作成した。環境問題へのアプローチには，法的，経済的，行政統制的といった多元的で多様なものがあること，学際的に取組む必要性のあることに気付いてもらうことも意図した。身近な場面設定を工夫することにより，さまざまな制度や理論と現実の問題との関わりに気付くきっかけとなることも目指した。問１は公害に関して，概念や理論等を活用し，制度や政策，日常生活に見られる人々の行為等，社会的事象の本質を捉えることが出来る力を問うことを意図した。問２は外部経済・不経済に関して，問８は環境影響評価に関して，それぞれ概念や理論等を活用し，制度や政策，日常生活に見られる人々の

行為等，社会的事象の意味や意義を解釈することが出来る力を問うことを意図した。問６は固定価格買取制度に関して，概念や理論等を活用し，社会的事象等の原因と結果等，関連について考察することが出来る力を問うことを意図した。難易度が高い問いがあったものの，おおむね適正であった。

第４問では，学習指導要領における「私たちの生きる社会」から「現代社会における諸課題」の情報，生命について，また「現代社会と人間としての在り方生き方」から「青年期と自己の形成」，「個人の尊重と法の支配」，「現代の経済社会と経済活動の在り方」の労働，経済，自己実現についての知識および思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して問題を作成した。小問については，問２では，会社の資金調達に関して，概念や理論等を活用し，制度や政策，日常生活に見られる人々の行為等，社会的事象の意味や意義を解釈することが出来る力を問うことを意図した。問４では，インセンティブに関して，概念や理論等を活用し，制度や政策，日常生活に見られる人々の行為等，社会的事象の意味や意義を解釈することが出来る力を問うことを意図した。問２，問４，問７の難易度が高かったと思われる。経済の基本的な理論，知識を問う問題であったため難易度が高かったものと思われるが，全体としておおむね適正であった。

第５問では，学習指導要領の「共に生きる社会を目指して」領域を中心に，地域や学校，生徒の実態等に応じて課題を設定し，持続可能な社会の形成に参画するという観点から，課題を探究する活動を通して，よりよいメディア・リテラシーの在り方についての考察を深めることを意図して問題を作成した。小問について，問１では，アナウンスメント効果を事例として，メディアの影響力に関して，概念や理論等を活用し，社会的事象等の原因と結果等，関連について考察することが出来る力を問うことを意図した。難易度が高かったと思われるがおおむね適正であった。問２では，「メディア別平均利用時間」「情報源としての重要度および信頼度」についての図表の読取りから，メディアについての諸課題を分析し，思考する力を問うことを意図した。問３では，記者会見についての情報が二つのメディア（SNSと新聞）から発出されたと仮定し，各メディアの特徴と課題を分析することでメディア利用の在り方を多面的・多角的に考察し，公正に判断することが出来る力を問うことを意図した。問２，問３とも難易度は適正であった。

３　出題に対する反響・意見についての見解

第１問の全体については，多角的な観点から受験者の様々な力を計測する点が評価された一方，問題の難易度が高いとの指摘を受けた。一部の小問の難易度が高かったと思われるので，難易度を適切なレベルにすることは今後の課題としたい。問３と問５は共通して，リード文で疑問を投げかけて，それを意識させながら問題を解かせるという構成が高い評価を受けた。問題作成においてリード文と小問の関係は重要なポイントなので，この前例は今後に活かしたい。問６は，現代社会の科目で身に付けてほしい力をバランス良く問う良問であるとの評価を頂いた。紙幅と時間が限られる中で幅広い知識や能力を問うことに関して，この小問は一つの方向性を示したと考えている。

第２問については，文章や資料の分量が多いので時間はかかるが，各場面の行動を自らの立場に置き換え，自分ならどうするかを具体的に考察すれば難しくない，という評価を得た。全体を俯瞰しまとめるリード文がほしいという指摘があったが，受験者の負担を考慮した字数削減とのバランスが難しいところである。問２については，情報の非対称性が商品の取引にどのような影響を与えるかについて考えさせることを意図しており，「ごく身近にも経済的な考え方があることについて，受験者自身に気付かせるという観点から良問と言える」との評価を得た。問３については，消費者の購買行動を心理学の視点から捉えた実験についての資料を読み取る技能を問う問題であり，「資料を丁寧に読み解けば正答に至ることの出来る，難易度はそれほど高くない問題である」との評価

を得た。問４については，購買行動から防衛機制や葛藤について基礎的・基本的な知識を問う問題である。本問は,「具体的な行動を防衛機制や葛藤についての知識と結び付けて考察させる問題で，標準的な難易度の出題である」との評価を得た。問５については標準的な難易度の出題と思われたが，難易度は高かったと思われる，との評価を得た。本問で取り扱われた三名の思想家・思想内容は，人間の尊厳や人類の福祉の視点から現代社会を考えるための重要な学習事項であり，是非，知っておく必要があると考える。

第３問について，全体として「知識問題だけでなく，基礎的な重要事項を資料の読み取りから考察させるなど工夫された出題が多かった」との評価を受けたが，同時に，比較的難易度の高い問題が多いとの指摘も受けた。問１については配布資料とメモの読解によって解答することが出来るため，比較的平易な問題であるとの指摘がされた。出題形式は大学での法学教育を念頭においており，高等教育への橋渡しを意図した出題であったが，出題方法については今後も検討をしていきたい。

第４問のリード文は,「起業が成功するためには何が重要か」という点から，私企業の経済活動について，企業の経営という視点から実学的に捉えるという特徴をもった問題とみなしていただいた。出題者の意図が適切に理解されたことは喜ばしい。問２は，貸借対照表を完成させることを通じて思考力判断力を問う問題と評価していただいた。高等学校等で商業科目を履修しているか否かによって問題の難易度が異なるという指摘はその通りであるが，社会で活用するための学びという点から必要な問題であったと考えている。問４はインセンティブについての思考力を問うものであり，読解力に基づく思考力判断力を問う問題として評価していただいた。今後も引き続き資料やデータから思考力・判断力・表現力等を問う出題形式を工夫していきたい。

第５問は，全体として「メディアの影響力，年齢階層別の利用実態と信頼度，情報の読み解き方という一連の流れの中でメディア・リテラシーについて考察させていて，良問である。各問の分量は多いが，資料等を活用して，様々な力を問うている」との評価をいただいた。問１については，惜敗率が難しいとの指摘があったが，当選者の決定過程を知ることは主権者教育としての意義があると考えている。ただし，難易度については今後の問題作成にあたって留意したい。問２については「二つの資料からメディアの利用実態と信頼度について読み取れることを確認する思考力判断力を問う」という評価を頂いた一方で,「メディアの利用実態と信頼性についての表とグラフを読取る技能問題である。難易度としては高くない」という意見をいただいた。課題探究学習は，生徒が生活経験を踏まえて探究課題を設定し，自ら調査を遂行しながら，問題解決を図ろうとするものである。こうした学習場面を問題化する際には，様々な資料（データ）を複合的に分析する中で，社会の実態を様々な視点から捉えていく力が求められる。難易度の調整が難しい出題形式ではあるが，今後さらなる工夫を図っていきたいと考えている。問３については「資料は多いが，問題自体は平易である」という評価を頂いた。本問は，学んだ知識を基に現実社会で高校生が直面している二つのメディアを比較・分析し，その特徴と課題を考える問題であり，課題探究を主題としているため難易度を調整することが難しい性質を持っているが，課題探究の過程を問う出題方法については引き続き検討をしていきたい。

４　ま　と　め

全体として基礎的・基本的な知識を確認する問題や，多様な資料を活用して多面的・多角的に思考する問題がバランスよく出題されており，出題内容については学習した事項を現実の社会の事例に置き換えて考える問題など日頃より時事的な問題に関心をもつことが重要であるというメッセージが感じられるという評価をいただいた。また，既習した知識や提示した考え方，理論を基に，資料や図表などを活用して考察させており，資料が十分に活用されている良問が数多く見られたとい

う評価や，資料を活用する以外にも，考え方や理論に基づいて事例を考察して分類するなどの出題の工夫を高く評価していただいた。

他方で，直接設問を解くために必要のない場面設定などの冗長な説明が見られたことや，大問のテーマとの関連が薄い小問があったことで受験者が戸惑ったのではないかという指摘もいただいた。

倫理，社会，文化，政治，法，経済，国際社会などの多様な面の知識・技能を関連づけて，現代社会に生きる人間としての在り方生き方を考えるという「現代社会」の科目の特性を踏まえ，問題の場面設定には今後も工夫をしつつ，受験者が制限時間内に余裕をもって考え解答できる問題作成を追求することが今後も課題となっている。